

黒畦

何百万年にもわたる浸食とサンゴ礁の隆起と陥没は、この険しい海岸線に珍しい地形を作り出しました。海から突き出している巨大な岩の塊は、硬い花崗岩、石灰岩、サンゴなど、さまざまな種類、形、大きさの岩石のかけらが集まってできたものです。この岩にはいたるところに大きなポットホールが空いています。ポットホールは、礫を運ぶ渦流が長い年月をかけて岩の表面をくぼませることのできる垂直円筒形の穴です。大きなものでは直径 50cm ほどにもなります。ポットホールだらけの岩群はあちこちが崩壊しており、落ちた部分が地面に転がっています。この堆積物は、町の天然記念物に指定されています。

この地域に生育する草木には、ソテツやアダン、モクビャッコウ（絶滅危惧種）、クサトベラなどが挙げられます。また、ヤドカリや熱帯魚など、海の生物であふれかえる数多くの潮溜まりがあります。海に向かって右の方には、石筍や鍾乳石でいっぱいの洞窟が連なっており、洞窟壁は水流に含まれるミネラルによって着色されています。

安全には充分注意してください。岩やサンゴの表面はでこぼこしており、場所によっては鋭く尖っていることがあります。満潮時には行けなくなる箇所があるので、潮の満ち引きを確認しましょう。洞窟内を散策する際には、ライトを持って行きましょう。帰るときはすべてのゴミを忘れずに持ち帰ってください。